

2024年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [式 和義]

学年・組・番号 [3年 1組 12番]

研究課題: カンボジアにおける日本の地雷除去技術と貢献について

(英文) Japanese Mine Clearance Technology and Contributions in Cambodia

研究概要:

私は以前から国際問題に興味があり、その中でカンボジアの地雷問題を知り、2024年5月にカンボジアの地雷原を視察するスタディーツアーに参加しました。夏休みの期間中にはNPO団体への訪問やZoomでのオンラインセミナーに参加し、地雷に関連する研究調査を行いました。

本報告書では、カンボジア国内に埋設されている地雷と、その除去技術について取り扱います。具体的には、日本の地雷処理技術がカンボジアでどのように活用されているか、カンボジアの地雷処理にどのように貢献しているかについて、研究した内容を報告します。カンボジアでは未だに多くの地雷が除去されていないため、被害にあう人も少なくありません。しかし近年は、多くの企業や団体が支援を行っており、徐々に解決の道をたどり始めています。これらの企業や団体が行っている支援や協力についても触れながら、日本の地雷除去技術について報告します。

研究成果:

この研究を通して、私は日本国内の様々な地雷除去技術について学ぶことができました。また、カンボジは数十年前まで多くの支援を受け取る側でしたが、現在は地雷除去技術を習得し、ウクライナなどに技術提供を行うまでに成長したことを知ることができました。この変化は、日本の技術などに支えられた結果であり、カンボジアが他国を支える存在へと成長したことには大きな意義があると感じました。本研究を通じて、日本国内には多くの優れた技術が存在し、それがカンボジアなどの地雷除去支援に役立っていることを発見しました。今後も日本の技術が世界各地での地雷除去に貢献し続けること、そして一刻も早くその技術が必要なくなるほどに地雷の数が減ることを強く願っています。

研究者: (以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 式 和義

担当教諭 和田 裕子 (受給額: 25000円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEB ページ上で公開されることに同意します

(次のページに続きます)

研究成果写真：



(左側：2024年8月9日 日本地雷処理を支援する会（以下 JMAS）事務所にて著者撮影：どちらも実寸大の対人地雷の模型)

(右側：2024年8月9日 JMAS 事務所にて著者撮影：実寸大の対戦車地雷の模型。上方の2つは対人地雷の模型)



(左側：2024年5月7日 カンボジア バンテミアイチェン州にて著者撮影：上段右側、円形のものが対戦車地雷、上段左側は不発弾、下段はすべて対人地雷。すべて火薬を抜いて安全化された実物)

(右側：2024年5月7日 カンボジア バンテミアイチェン州地雷原にて防護服を着用して撮影)



(左側：2024年8月9日 JMAS 事務所にて著者撮影：金属探知機の実物)

(右側：2024年8月9日 JICA 地球ひろばにて地雷展示を視察)

以上